



小川の記憶、

ひれの季節

生き残るための段取りと、
命の居場所の物語。



【蛙】水面と陸を繋ぐ観測者。
生存戦略…状況の俯瞰と伝達。



【アメリカザリガニ】眠たげが鋭い。外来の気配。
生存戦略…横滑りの待機と不可侵。



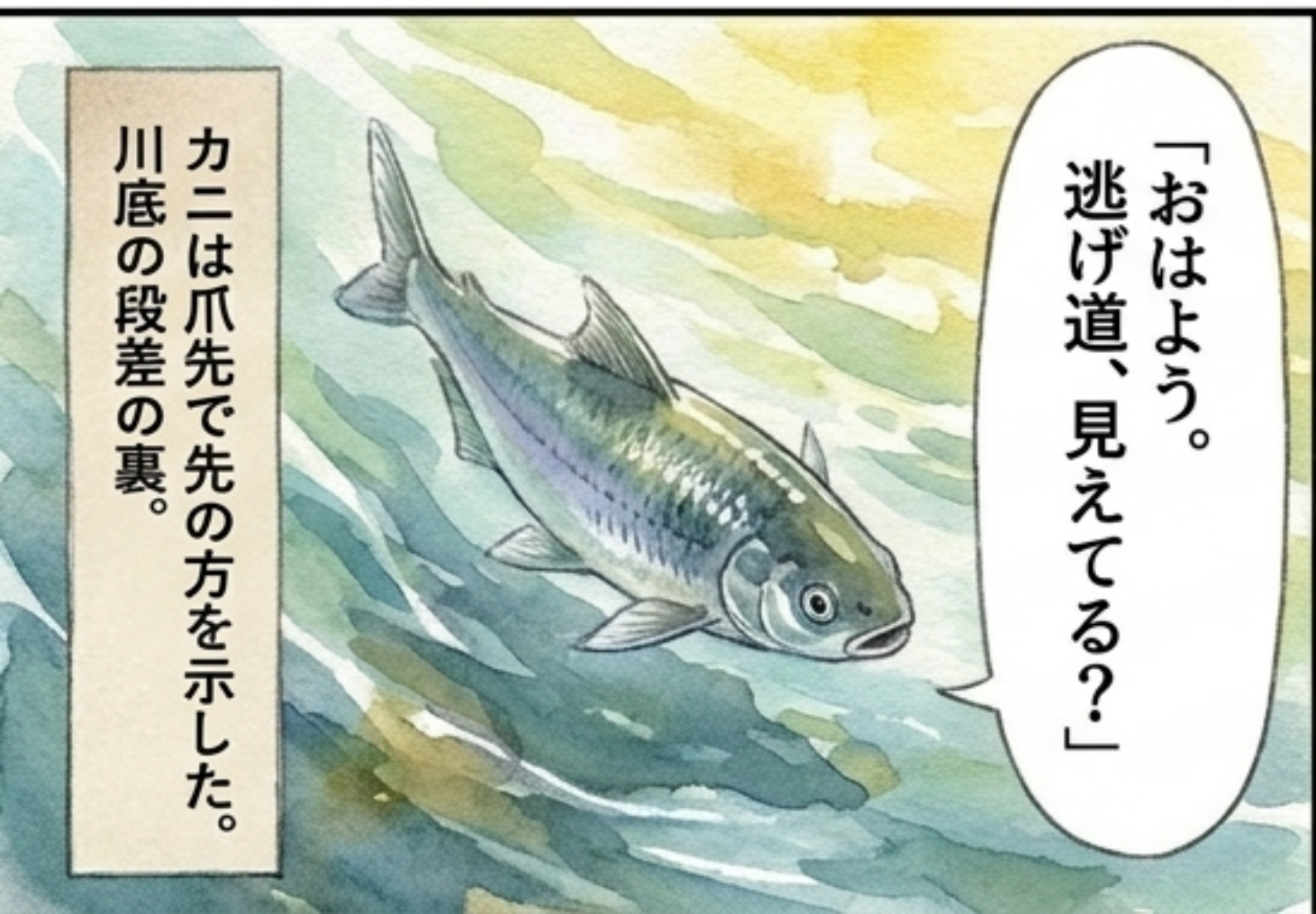
【カニ】慎重な観察者。岩陰が定位置。
生存戦略…水底の空間把握と退避。



【魚】常に流れを読む。感情を殺し「段取り」をこなす。
生存戦略…段差の裏への退避。



「おはよう、魚。
今日は水、少し冷たいね」




「おはよう。
逃げ道、見えてる？」

カニは爪先で先の方を示した。
川底の段差の裏。




朝の光が小川の水面を細かく割り、
鱗を順番に叩いていく。




人間の匂いがした。
草が切られた、って匂い
て匂い

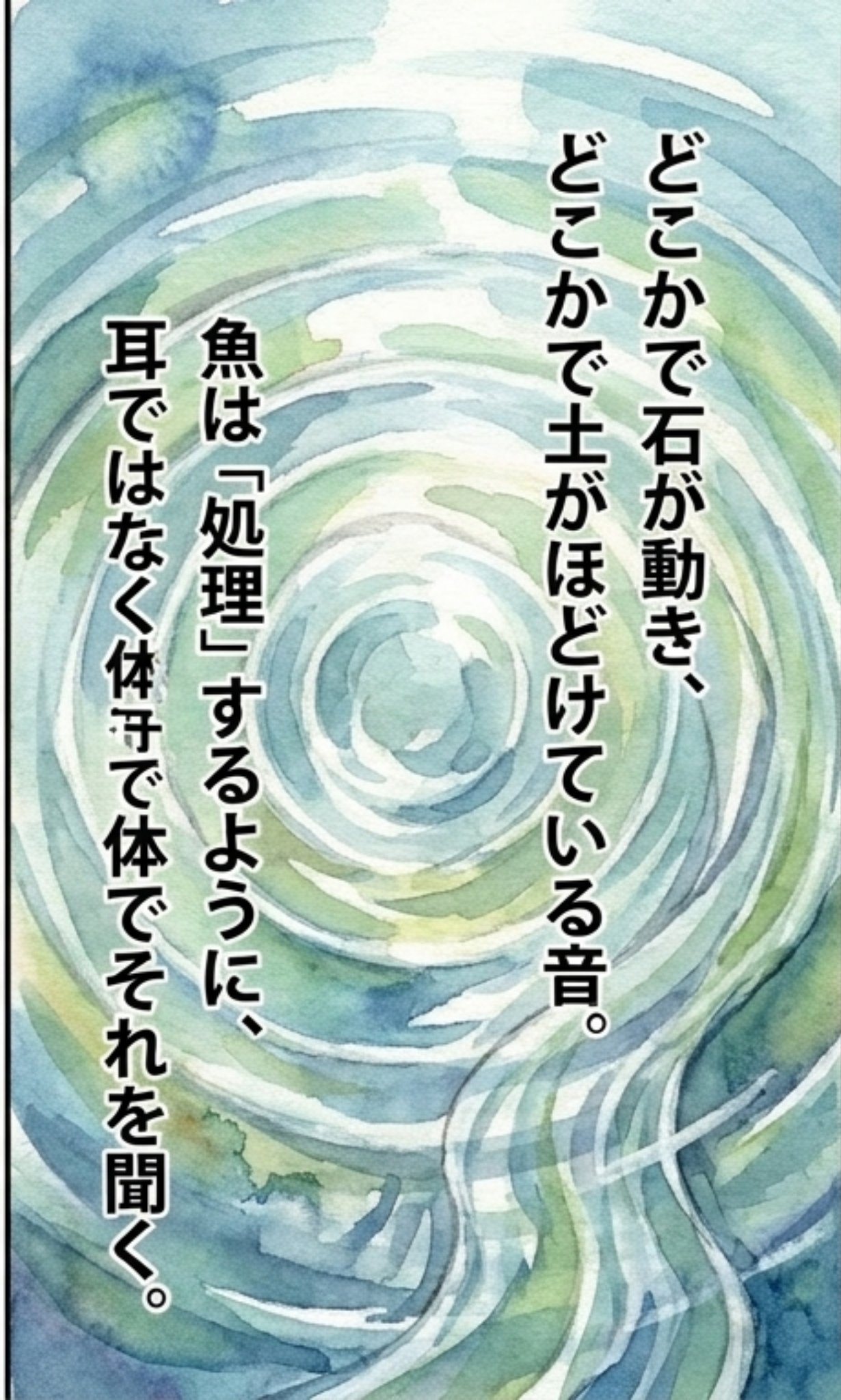
確かに、去年より岸の木が少ない。風の向きが変わる。
木陰が短くなっている。
やるべきことは決まっている。情報を受け取り、次の行動に回す。



「魚、今日は水が歌ってる。
聞こえる?」



流れの音に、いつもより一段高い響きが混じっている。

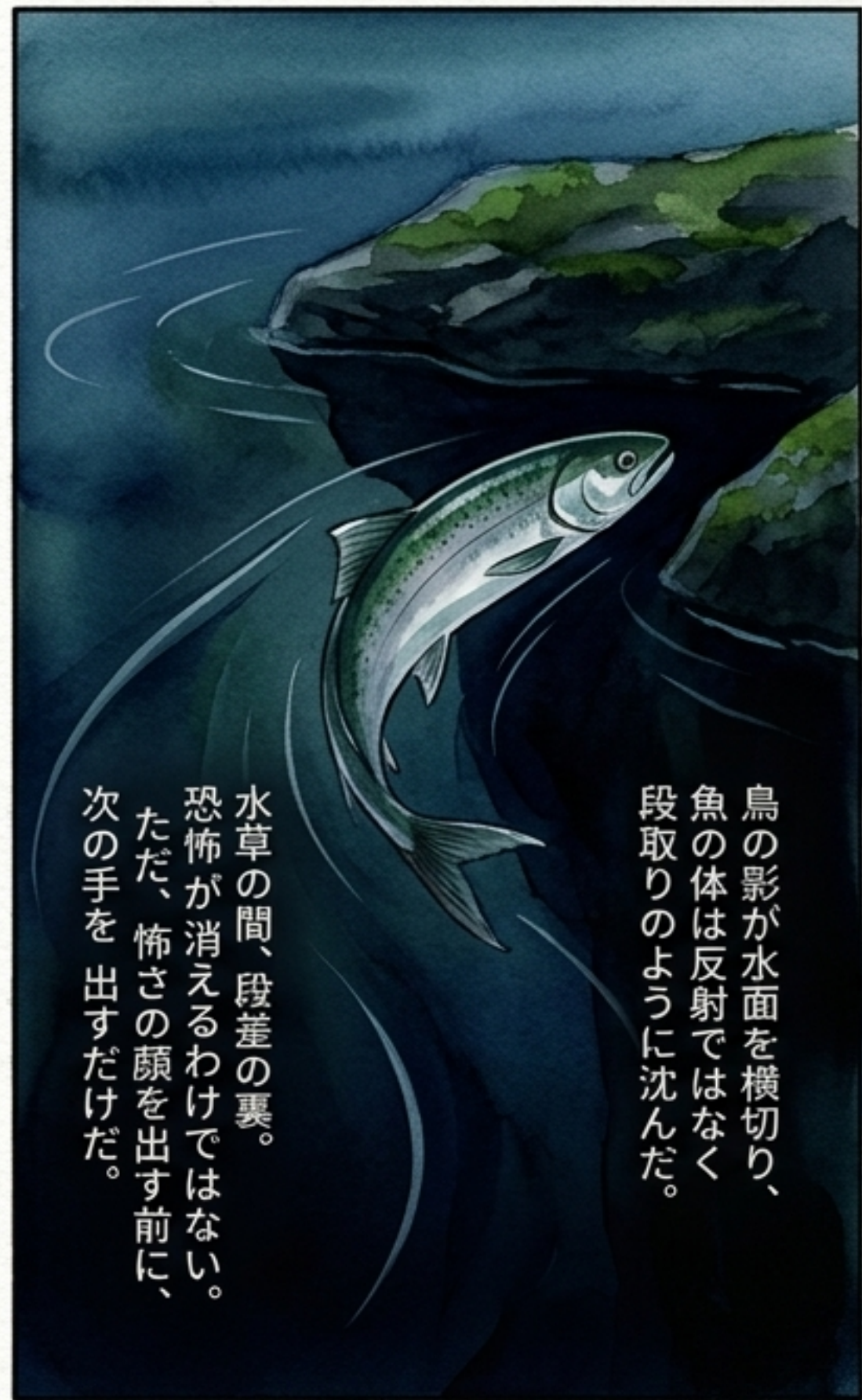


どこかで石が動き、
どこかで土がほどけている音。

魚は「処理」するように、
耳ではなく体でそれを聞く。



「誰かが来る音だね」

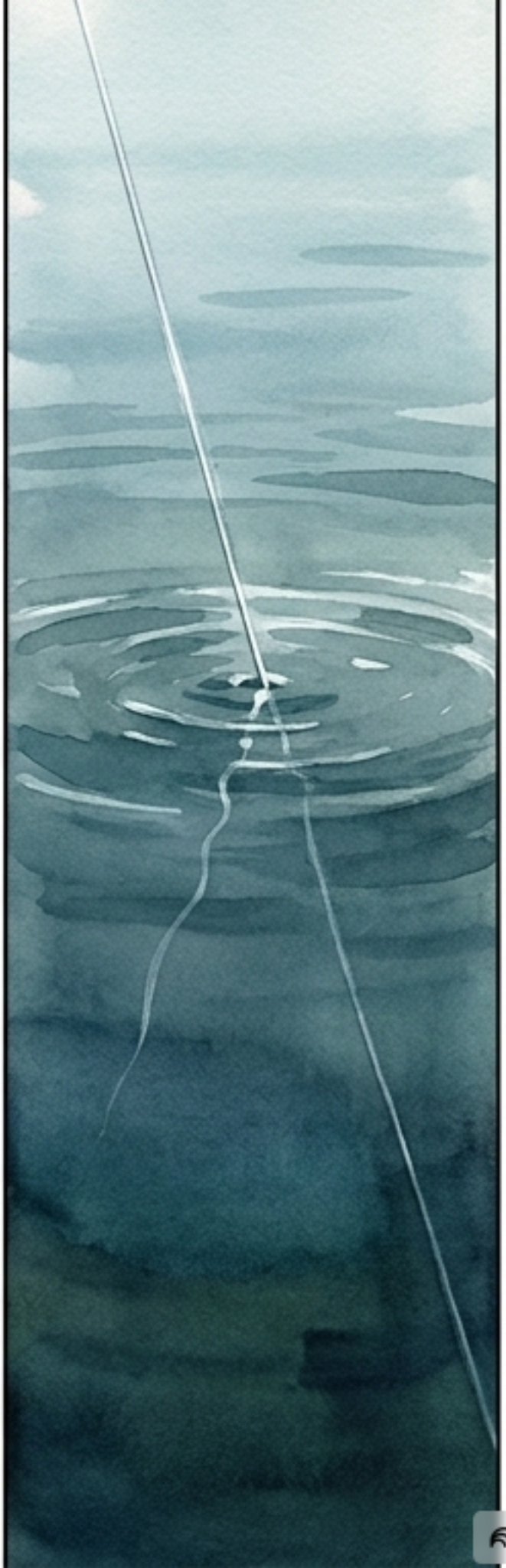


水草の間、段差の裏。
恐怖が消えるわけではない。
ただ、怖さの顔を出す前に、
次の手を出すだけだ。

鳥の影が水面を横切り、
魚の体は反射ではなく
段取りのように沈んだ。



糸が引かれた瞬間、水の中で、誰かの気配が途切れた。



「人間は確かに
数を減らす」



魚は感情を大きくしない。喪失は喪失として、手順表の余白にそのまま置く。

次の朝。水草の間に、見慣れない影が増えていた。速に出ている。



「川上から来た子だよ。
遅れてきた、たぶんね」



「遅れてきた…」

戻らない者がいるなら、時間が運んでくる別の命がある。

「今日は、長老が
顔を出すかも」



やがて、深みからぬるりと影が上がってきた。
肌は古い石のようにざらつき、
ひげのような突起が水を撫でる。
目は眠そうなのに、通る瞬間だけ鋭い。



魚。
ここに居るのは、
よく学んだ証だな

学んだ。でも、
失うことも多い

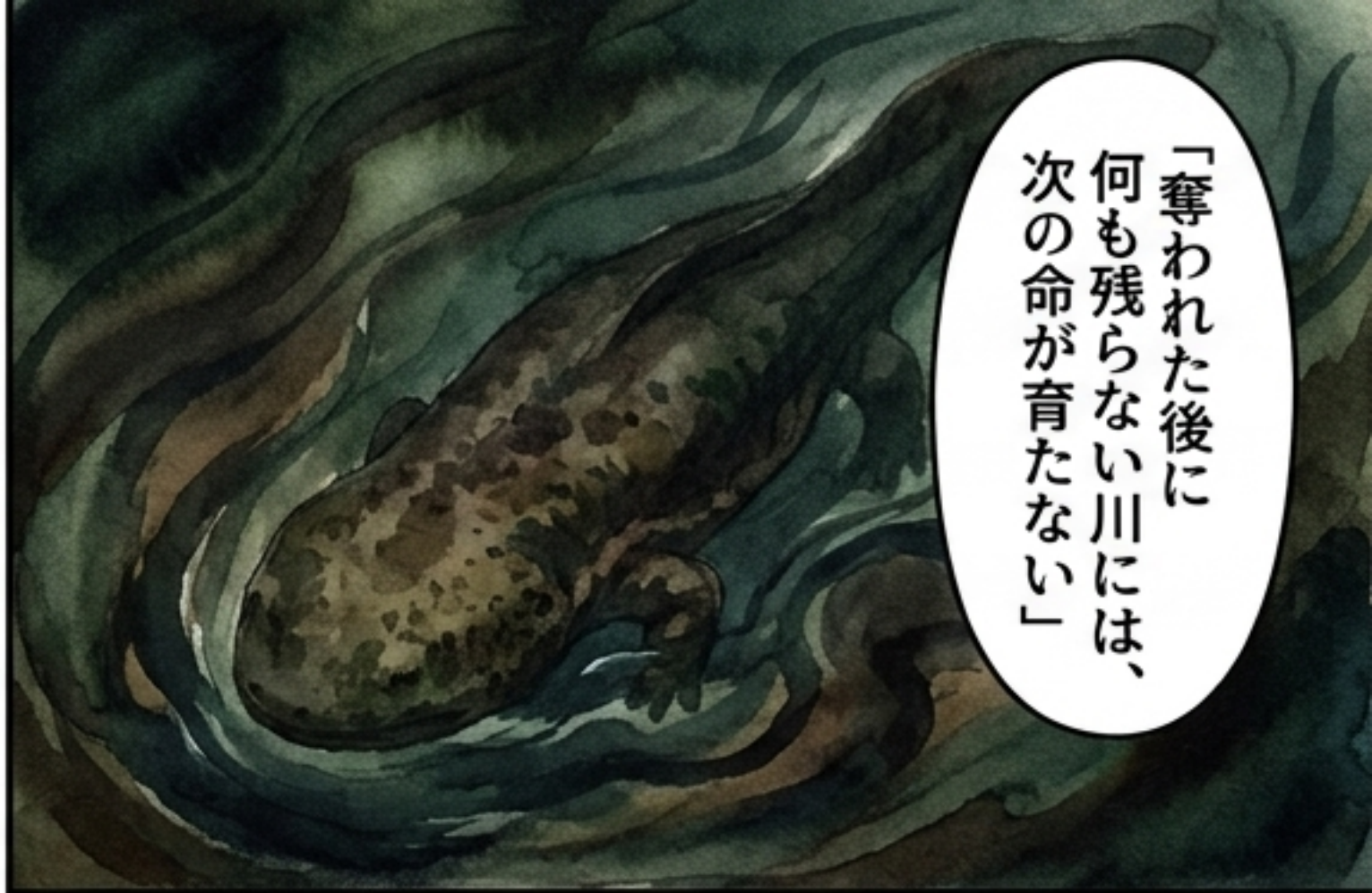
前の怖さのままでは、
同じ場所に留まる。
それでは命が先に疲れる





「じやあ、
今日は教えよう。

逃げ方じやなくて、
居場所の作り方」



「奪われた後に
何も残らない川には、
次の命が育たない」



魚の頭に、先日出会った
小さな魚の焦りが浮かぶ。
焦る理由が「一つ減る」
ようにすることはできる。

【これまでの段取り…生き残るため】

- ・鳥の影 ↓ 水草への退避
- ・釣り糸 ↓ 段差裏への切り替え

↓ 生き方の更新 ↓

【これからの手順…居場所を作るため】

- ・カニとの連携 ↓ 食料の場所の確保
- ・ザリガニとの不可侵 ↓ 平穩の維持
- ・小さな魚への伝授 ↓ 命のサイクルの継続

カニは
「食べ物の場所」を
教える。



ザリガニは
「喧嘩しない」と
短く念を押す。



脅威は消えない。
それでも魚は、
今日の光の中に何かを見た。

時間が過ぎるだけの毎日に、
意味が差し込む瞬間がある。




やがて夕方。
鳥が遠くで鳴いた。
怖さはあるが、顔には出さない。
怖さはあるが、顔には出さない。
必要なだけ判断し動く。

隣で小さな魚が
泳ぎ方を覚える。



背びれが少しだけまっすぐに
まっすぐにいくたび、魚の胸の奥で
小さな安心が立ち上がる。



次の日もまた、
鳥も糸も鳥も糸も来るだろう。
代わりに、残る場所を整える。
今日の手順を明日へ渡す。

その先に、前向きな
前向きな居場所が増えていく。